

岐阜県歴史資料保存協会の 販売資料・書籍のご案内

岐阜県歴史資料館1階西の協会事務局で販売しています
郵送希望の方は、メール(協会HPから可)または
TEL(058-214-8561)でお申込み下さい

◆『名もなき人々の歴史—濃州安八郡小泉村—』

(全国自費出版大賞優秀賞受賞著書)

協会会員 富田満江氏著 1,000円

本書は、安八郡小泉村(現大垣市小泉町)の庄屋であった
説田家文書をもとに、江戸時代の小泉村の歴史が語られてい
ます。

村の運営、支配者との関係や治水事業
等のほか、祭りを楽しむ村人など一般庶民
の立場からみた一つの村の歴史が生き生
きと再現されています。



◆『美濃・尾張の石碑を訪ねて』

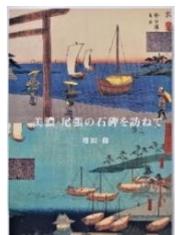
協会会員 増田 修氏著

1,500円(会員は1,200円)

増田修氏が、10年をかけて美濃、尾張の石碑を訪ね歩
いて調査された記録です。増田氏は、皆様に読んでもらい

研究等に役立てていただくとともに、協
会の財政支援になればと当協会へ本書を
寄付されました。

常夜燈、街道筋、道標、渡船場、頌徳碑、
記念碑、改修碑、砂防碑、ダムなど、この
地域の石碑のほとんどが掲載されている
労作です。

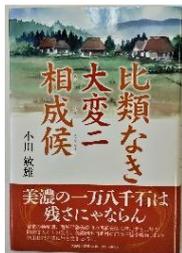


◆『比類なき大変ニ相成り候』

協会前会長・顧問 小川敏雄氏著 1,200円

本書は、美濃国方県郡小西郷村(現岐阜市小西郷)の庄屋
であった小島当三郎光純が記した「公用日記」に記された史
実が物語風に著わされています。小西郷村は磐城平藩安藤
氏の飛び地所領であったが、幕末の藩主であった老中安藤
信正は公武合体策を進め和宮降嫁直後の文久2年(1862)1
月に江戸城坂下門外で水戸浪士の襲撃に
あい失脚した。

このような政情のなかで、小島当三郎
が、王政復古・戊辰戦争と進む時代の大転
換期に領地・領民のために様々な活動した
ことが克明に記されています。



◆『広告が語る みの・ひだの近代化』1,000円

※新規入会者へ無料進呈

本書は、当協会30周年を記念して従来あまり重要視さ
れなかった広告や引き札類に着目し、それらを通して明治
から大正の近代化を、庶民の立場からビジュアルに感じと
ろうとしたものです。

◆『徳川家康と美濃四将の謎』協会元会長・

協会顧問 丸山幸太郎氏著 1,400円

本書は、斎藤道三・織田信長・明智光秀・
古田織部の美濃四将の謎について解明す
るとともに、戦国の世を終焉させ新たな国
づくりを実現した徳川家康について、四将
が目指したものととの関わりや違いについ
て述べられています。



◆『前田土佐守家資料館所蔵 図録 慈芳院の書状』

700円(会員は500円)

◆『牟宇姫への手紙 三(角田市文化財調査報告書第

55集)』 1,500円(会員は1,300円)

『慈芳院の書状』と『牟宇(むう)姫への手紙』
とも、協会会員がその編集・解説に貢献された
縁により、寄贈していただいたものです。前書
の慈芳院は三代前田土佐守家当主前田直作
(なおなり)夫人竹で、三代加賀藩主前田利常
の外孫にあたる女性の書状(消息)です。

後書は、伊達政宗の次女で、伊達家一門の
角田石川家に嫁いだ牟宇(むう)姫にあてられ
た手紙です。姻戚関係にあった後水尾天皇女
房帥局や他藩に嫁いだ妹などさまざまな女
性の手紙が収録されています。

両書とも、原文(写真)のほかに解説文・大
意・解説が記されて、わかりやすい図録となっ
ており、“なんでも鑑定団”の古文書鑑定で
おなじみの増田孝先生から、「女筆文書を学ぶ
には大変良い本です」との評もいただきました。

(右上写真は、『慈芳院の書状』中の一頁。

左下は『牟宇姫への手紙 三』)

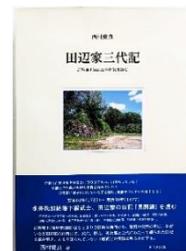


◆『田辺家三代記—加納藩下級武士の日記を読む—』

協会会員 西村覺良氏著 3,000円

本書は、永井氏加納藩(岐阜市)下級武士の田辺家三代に
わたる日記『見聞録』を読み解いたものです。厚見郡東島村
(岐阜市)の有力農民であった田辺家は下級武士に取り立て
られましたが、田地を所有して年貢を納めていました。

日記は、江戸後期より明治維新までの、
加納城下はもとより、全国的な動向から家
庭の事情まで広範囲に綴られており、あま
り知られていない下級武士の実態が明ら
かにされています。特に明治維新前後の
動乱期はリアルです。



◆『岐阜県古文書読解講習会史料集・解説集』

バックナンバー(平成14~令和4年度)

各年度 1,500円(会員は1,000円)

※各年度の『史料集』の掲載史料名及び講師名は当協会のホー
ムページに掲載しています。